

石川 雅俊(いしかわ まさとし)

准教授

専門分野／法学、刑事法学

首都大学東京大学院社会科学研究所法学政治学専攻法律学分野博士後期課程退学。博士（法学）。

首都大学東京都市教養学部法学系助教、本学経営学部助教を経て、平成 31 年現職。特に経済犯罪に関心がある。

著書：『これからの刑事司法の在り方』（2020 年、弘文堂、共著）

論文：「ビッグモーター社不正請求事件における保険会社の関与と刑事責任の可能性」
経営論集 13 号（2024 年、単著）

「無令状の強制採血によって得られた証拠の証拠能力」法学会雑誌 62 巻 1 号（2021 年、単著）

「アメリカの電子令状」捜査研究 823 号（2019 年、単著）等



ディズニー作品のポリコレについて

高校生の皆さんは、ディズニー映画は好きですか。最近のディズニー作品はポリコレが多いといわれています。ポリコレとはポリティカル・コレクトネス（政治的正しさ）の略で、特定の人に対する差別や偏見を「正しくないもの」とし、それらのない社会を目指して、人を傷つける言葉や表現をしないように配慮する考え方をいいます。この考え方は SDGs を掲げ、多様性を尊重する現代社会に適合しているといわれています。

「多様性の尊重」とは、異なる価値観や経験、バックグラウンドを持った人たちがそれぞれの違いを認め、お互いに尊重し合うことです。今ディズニー社が志向しているポリコレは、歴史的に虐げられてきたマイノリティの人たち（黒人や LGBTQ の人たち）の価値観や権利を尊重することにより、平等な社会を実現しようとするものです。そのための手法として、たとえば、リトル・マーメイドのアリエル役やピーター・パン&ウェンディのティンカーベル役に黒人歌手や黒人女優を採用しました。しかし他方で、このような方法による「多様性の尊重」は、本作品（原作）を愛するファンの（アリエルやティンカーベルは白人だという）価値観を軽視することになってしまうので、そもそもお互いの価値観を尊重しているということは難しいと思います。

ところで、ポリコレを標榜しているアメリカの企業はディズニー社だけではありません。たとえば、ナイキ社なども挙げられます。このようなアメリカを代表する企業がポリコレに偏重するのは、アメリカにおいて、歴史的にマイノリティの人たちの権利を侵害してきたことに対する反省があるといえるでしょう。とはいえ、それが偏りすぎれば批判の対象となり、企業業績に悪影響がでるのは避けられません。

ディズニー社について、2025 年度は業績が上向きましたが、それまでは良くありませんでした。とりわけ、ディズニープラスや映画などのコンテンツビジネスが足を引っ張っていたのです。コンテンツビジネスが足を引っ張った理由として、内容の面白さよりもポリコレを重視したことを挙げている見解があります。たしかに、思い入れのあるキャラクターの声優が交代してしまうと同じアニメでも観ていて内容が入ってこないのと同様に、本来白人であるべきアリエルが黒人であるとそれが気になって内容が入ってこないということは、ファンではなくとも理解できます。どうしても黒人俳優を採用したというのならば、別のオリジナル

の作品を作るべきでしょう。すでにディズニー社のボブ・アイガーCEOは、ポリコレに偏重していたことを認め、これから「最優先されるのは人々を楽しませること」と述べています。どれほど素晴らしい考え方であっても、それが消費者（特にディズニー社の場合はコアなファンが多い）に対する押しつけのようになってしまった場合、消費者が離れて行ってしまい企業業績は悪化します。上記のようなディズニー社の事例は、その最たるものといえるでしょう。

本学では「徳」のある人材の輩出を建学の精神として掲げています。「徳」のある人材には複数の意味がありますが、そのうちの1つが他者に対して「おおらかな」心を持つ人、つまり、本来の意味における「多様性」を尊重できる人のことを指します。今、そのような人材を社会は求めているのです。高校生の皆さんも、ぜひ本学経営学部でそのような人材を目指して学んでみませんか。